

第58回秋季大会のご案内

第58回秋季大会 大会長 加藤 幸雄
(日本福祉大学 学長)



すでにご案内の通り、日本社会福祉学会第58回秋季大会は、10月9日(土)、10日(日)の両日、日本福祉大学名古屋キャンパス、美浜キャンパスを中心に開催します。

前回の法政大学多摩キャンパスでの全国大会は、すばらしい自然環境と、法政大学のみなさんのホスピタリティあふれるおもてなしによって、実に気持ち良く、シンポジウムや研究発表に参加させていただくことができました。日本福祉大学美浜キャンパスは、オーシャンビューの自然環境がゆたかで、日本の原風景が残り、人情味ゆたかな土地柄です。学会開催と同じ時期に名古屋で行われるCOP10(生物多様性条約第10回締結国会議)のモデルとなることができる地域です。自然環境の歓迎に加え、法政大学のみなさんを見習い、人情味豊かな土地柄にふさわしいおもてなしを心がけたいと思っています。

今回のメインテーマは、「持続可能な社会福祉の展望と課題—経済・環境・福祉の視点から—」です。すでにお届けしているご案内の冊子に、私は以下のように書きました。

「持続性可能な社会の原点は「いのち」です。「いのち」がゆたかに育まれるための絶対条件は「平和」です。今回は、ノーベル物理学賞を受賞され、憲法第9条や平和への思いを人一倍つよく持っておられる益川敏英氏に登壇願います。「くらし」への不安が高まる昨今、雇用保障と社会保障を一体として考えなければならない現実が迫っています。昨年度の大会では、宮本太郎氏に「生活保障」の視点から、「排除しない社会」のあり方について問題提起をしていただきました。今回は、個別の問題に着目して「コミュニティの生活の質」を改めて問うこととなります。また、持続性可能な社会のためには未来が開かれていなければなりません。希望や「いきがい」がどう拓かれるのか。その一つの重要な視点が「環境」です。》そこで、開催校シンポジウムでは、セーフティネットの綻びが顕著になっている現実を直視し、新たな仕組みづくりを環境・医療福祉政策とソーシャルワークの視点から論議していただきます。また、国際シンポジウムでは、高齢者ケアサービスの運営と評価のシステムを日韓台の研究者によって比較検討していただく予定です。

人口統計推計値によると四半世紀後には、100歳以上人口が100万人を超える時期が想定され、認知症になる人が400万人に近づくと言われていています。人生90年、元気な高齢者の労働とセーフティネットのあり方が新たな角度で問われることとなるでしょう。「持続可能な社会福祉の展望と課題」を明らかにするためには、そこまで見通した総合的見解が求められるのではないかと思います。

なお、今回の自由研究発表には、コメンテーターを配置します。これまでの質疑応答に加えて、発表全体の構造化や問題の整理をして次につなぐことができれば幸いです。

それでは、多数のみなさんの来訪をお待ちしています。「なごやへ来てちょうだい」。

日本社会福祉学会第58回秋季大会 大会事務局からの直前情報

■参加申込み等について■

現在、大会実行委員会では、10月の開催にむけて準備を進めています。大会プログラムがお手元に届いたかと思います。当日はスムーズな運営ができるよう努めていきますが、ぜひ会員の皆様にもご協力をお願いしたいと思います。

【その1】参加申込みについて

過去の大会では「当日参加」が多いのですが、大会準備上、「事前申込み」をしていただけると本当に助かります。ぜひご協力ください。8月27日以降は、参加費が10,000円になっています。ただし9月末日まではオンラインで申込みができるようにしてあります。できるだけホームページから申込みをしてください。

【その2】宿泊先確保について

すでにご案内しました通り、大会期間中は名古屋市内での宿泊先確保が大変厳しい状況です。大会実行委員会が確保した「半田市内のホテル」もすでに予約が埋まりつつあります。<http://www.gakkai.ne.jp/jsssw/access/index.html#stay>

できるだけ早い予約をお奨めします。

【その3】昼食について

第1日目の名古屋公会堂の近くには飲食店が多くあります。

第2日目の美浜キャンパス周辺にはお店がありません。(コンビニまでも徒歩25分)当日はキャンパス内の生協食堂も営業してもらいますが、「お弁当」の事前注文をお奨めします。

【その4】情報交流会について

今大会では、情報交流会を企画しています。従来よりも参加費を格安にして(4000円)、一人でも多くの会員に参加してもらい、懇談しながら交流ができる機会にしたいと思います。若手の研究者も奮ってご参加ください。

【その5】自由研究報告の新しい試みについて

今大会では、自由研究報告の質的向上にむけて新しい試みを導入します。各分科会では総括討論をします。各発表の筆頭発表者は、分科会終了まで退席しないでください。

また各分科会には司会者とは別に今回からコメンテーターを配置します。現在、調整中ですので決定次第、大会ホームページで掲載していく予定です。

尚、すでに案内してありますように、美浜キャンパスの設備上の制約から、自由研究報告では、プロジェクターを用いた発表はできません。皆様にはご負担をおかけしますが、ご容赦ください。

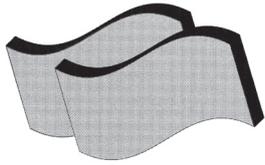


2010年度 一般社団法人日本社会福祉学会 臨時社員総会のご案内

総務担当理事・事務局長 岩崎 晋也

第58回秋季大会の2日目となる10月10日(日)の12:20~13:05に、2010年度一般社団法人日本社会福祉学会臨時社員総会が日本福祉大学美浜キャンパス文化ホールにて開催されます。

議題としては、一般社団法人日本社会福祉学会第2期(通算第23期)役員(理事・監事)候補者の承認、任意団体「日本社会福祉学会」からの財産譲渡について、名誉会員の推挙について等が予定されています。本臨時社員総会は、法人設立に伴い選出された代議員の方々にご出席いただき、ご審議いただきますが、一般会員の方にもご参加いただき、ご意見等を述べていただくことができますので(但し、議決権なし)、より多くの会員の方々にご出席いただきますようご案内申し上げます。



日本社会福祉学会 第22期 役員活動を振り返って

第22期役員の方々は、2007年9月23日～2010年10月10日までの約3年間の任期を務められましたが、今期を最後に役員を退任される4人の方々に、この間の活動を振り返っての思いや今後に向けての会員へのメッセージをお寄せいただきました。

■古川 孝順 会長（東洋大学）

会長としての任期も最終コーナーに差し掛かった。通算すると理事会メンバーとして12年ということになる。わが国の社会福祉が大きな変化を経験した時期と重なっている。若干の感慨がないわけではない。幸い理事諸氏を始め、関係者のご理解とご協力、そしてご尽力によって学会の一般社団法人化を達成することができた。もとより法人化を達成したといっても、かたちができたというレベルである。次期理事会には法人としての学会の基礎固めをお願いしたい。学会のさらなる発展を期すための基礎固めである。これを是非お願いしたい。

他方やり残した課題も多い。学会の本来の課題である社会福祉学研究的活性化、水準の向上ということでは道なお遠し、成果いまだしの感が強い。会長としての浅学非力は否めない。そうしたなかで、研究発表大会の改革、フォーラム活動の継承と発展、機関紙の充実など、成果をあげていただいた。ご担当の関係諸氏の卓見、ご尽力に感謝申しあげなければならない。

最後に、目を外に向けた学会活動の活性化を期待したい。社会福祉学の水準も一時代前に比較すれば、それなりに向上した。しかし、他の諸科学と肩を並べる研究活動や社会活動ということでは、残念ながらいまだし、である。社会福祉学研究者の目は内に向きがちである。内弁慶といえ言葉が過ぎるかもしれないが、諸科学と互角に渡り合える力量を身につけたい。そのことを志向し、可能にする学会活動を期待している。

■高橋 重宏 副会長（日本社会事業大学）

平成7年から庶務担当理事、同10年から総務担当理事・事務局長、同16年から会長、同19年から副会長として学会運営に参加した。学会員が増加し、様々問題も顕在化した。特に、学会発表の

質の低下は深刻な課題であった。また、今期は研究倫理委員会の委員長として会員からの通告に対応してきた。現在は日本社会福祉学会研究倫理指針があるが、やはり倫理規定と罰則のあり方を検討する必要があると思う。また、通告があった場合と、無い場合の対応も慎重に検討しなければならない。学会会員がもっと主体的・積極的に学会を支えていただきたい。一緒にご協力いただいた理事、監事さらに事務局の方々に深謝したい。新理事会のご活躍を祈念している。

■太田 義弘 監事（関西福祉科学大学）

今日の学会動向は、会員の理解と協力のもと、役員への献身的な尽力で一大変革期を迎えたと実感している。新しい器に学術研究や教育と実践の交流からの成果を盛り上げねばならない。その実働はこれからで、分野別学会に対し総合学会の特性や固有性を生かし、時代を反映した事業計画などへの挑戦、会員の関心や参加を促進し、帰属意識を鼓舞できる一流学会へと課題は山積している。改めてわれわれ会員自身の姿勢と責任が問われていることへの共通理解を深め、その出発点に立脚していることを再認識し行動をともにしたいものである。このような時期に学会運営に参画する機会を与えられ、新生の労苦をともにできたことに喜びと感謝を覚えている。

■田端 光美 監事（東北福祉大学大学院）

理事に就任した最初の任期は、それまで全社協の協力を得てきた事務すべてを学会で執行することになり、任意団体であることの制約や会計処理など思わぬ困難に戸惑い、いずれは規模の大きな学会と同様に法人化が必要になるだろうと予測した。それには学会の研究水準を向上することも必須の課題で、二期目は新設された研究担当理事を受け、機関誌投稿論文の査読制を導入するなど、学会は整備過程であった。監事就任は法人化の検討と申請の準備期で、それに伴う予算や法人会計を円滑に移行する手続きなど、監査も通常期以上に複雑であった。長い会員歴を経て、一般社団法人として発足したこの時期に役員をつとめ終えることができたことを会員各位に感謝し、今後のいっそうの発展を念じている。



**日本社会福祉学会
2010年度 第2回 理事会報告**

日時：2010年7月17日（土）13：00～15：00
場所：東洋大学 白山キャンパス 第二会議室

【会長挨拶】

本日は任意団体時における「2009年度事業」と「2009年度決算」の審議、6月17日に実施した監事による事業及び経理処理の監査報告を審議していただく。さらに、2009年度決算の確定を受けて、任意団体から一般社団法人への「財産譲渡」についても審議していただきたい。

【出席理事の確認及び議事録確認】

会長が議長となり、出席理事を確認し、本日の理事会が成立したことを宣言。議事録の確認・署名者は、太田監事が欠席のため、会長と田端監事とすることを確認した。

【議案事項】

第1号議案：2009年度事業報告・決算報告について

次の事項を確認し、満場一致で承認された。
○任意団体時の事業・決算であるが、定款第28条の規定により10月10日開催の「社員総会」に諮る。
○定款第59条「活動状況・運営内容・財務資料等の情報公開」の規定により公開する。

第2号議案：監事監査報告について

6月17日に実施した業務および会計監査について田端監事から報告があり、満場一致で承認した。尚、本件も「社員総会」に諮り、情報公開することを確認した。

第3号議案：任意団体「日本社会福祉学会」からの財産譲渡について

会長から下記の提案説明があり、満場一致で承認された。○3月27日開催の社員総会で『一般社団法人日本社会福祉学会』への譲渡項目については、承認されている。○決算額等が確認されたので具体的な財産目録内容を確認していただき、4月1日に遡って譲渡を受けたい。○本件についても、10月10日の社員総会に諮り、ホームページに公開する。

第4号議案：名誉会員の推挙について

会長より、定款第6条第2項、一般社団法人日本社会福祉学会名誉会員規程に基づき、田端光美監事（昨年度に要件を満たされたが監事のため辞退）と太田義弘監事を「社員総会」において名誉会員に推挙したい旨提案があり満場一致で承認さ

れた。尚、今後は、75歳に到達した年度の最後の理事会で推挙し、5月開催の「定例社員総会」に諮ること、名誉会員規程の「申し合わせ事項」として規定化することを次回理事会で提案することを確認した。

第5号議案：常設委員会（研究委員会／国際学術交流促進委員会）規程について

会長から、次の事由により、次期理事会への引き継ぎ事項としたいとの説明があり、満場一致で了承された。○定款で定める「学術研究集会・講演会」「研究の奨励・研究業績の表彰」と多岐にわたる事業に対応するため、他の関連委員会との役割分担などの検討が必要であること。○韓国社会福祉学会との連携を中心に活動を展開してきた「国際学術交流促進委員会」について、留学生支援の在り方などの見直しが必要であること。

第6号議案：地域部会委員会規則について

岩崎総務担当理事から次の説明があり、今後の対応について満場一致で承認された。○本規則については、理事会前に各地域ブロック担当理事と協議した。○提案の「地域部会委員会規則」は、各地域ブロックを横断的に整理した規則で、各地域ブロックの現状・特性に合わせて条文化していただくことをお願いした。○今期の理事会でこの規則を成立させたいので8月末までに各地域の規則を提示していただき、9月19日開催の「運営委員会」を経て、10月8日開催の理事会で審議する予定である。

第7号議案：第60回（2012年度）秋季大会開催校について

会長から、第60回秋季大会の開催校として関西学院大学にお願いし、同大学から「学内手続きに入る」との回答があったことが報告された。

第8号議案：会員入会審査について

113名の入会が承認された。2010年7月11日現在の会員は、5302名となった。

【協議事項】

1. 次期役員への業務引継ぎについて

各役員は7月31日までに業務引継書を提出し、10月8日開催予定の「新旧理事会」において、業務引き継ぎを行うことが確認された。

【報告事項】

1. 役員選挙関係報告

役員候補者選挙管理委員会委員（岩崎委員）から選挙結果と、本日の理事会終了後に「推薦理事候補者選考会議」を開催することの報告があった。



2. 機関誌編集委員会報告

山縣編集委員長から「第三査読制度」および「書評」の問題点について説明があり、機関誌編集委員会で検討することを確認した。

3. 広報委員会報告

市川委員長から学会ホームページのリニューアルと、更新業務等を外部委託することの報告があった。

4. 全国大会運営委員会報告

杉村委員長から第58回秋季大会の申込状況および第59回秋季大会のメインテーマの検討状況について報告があった。

5. 地域ブロック担当者委員会報告

高橋委員長から、各地域ブロックの会計担当者への説明会を開催したいこと、その際の交通費は「学会本部予算」から支出してほしいとの要請があり、説明会と交通費執行について了承された。

6. 第6回日本社会福祉学会フォーラムについて

中国・四国地域ブロックの岡崎担当理事から第6回フォーラムの概要説明があり、テーマ・内容骨子案について了承された。

【連絡事項】

第58回秋季大会期間中の理事会等スケジュールを確認した。

2010年度第2回理事会 出席状況

役員名	氏名	出欠
会長	古川 孝 順	○
副会長(国内担当)	高橋 重 宏	○
副会長(国外担当)	白澤 政 和	○
総務担当理事	岩崎 晋 也	○
庶務担当理事	湯澤 直 美	○
研究担当理事	杉村 宏	○
研究担当理事	小林 良 二	×
研究担当理事	坂田 周 一	×
研究担当理事	野口 定 久	×
渉外担当理事	足立 叡	○
渉外担当理事	市川 一 宏	○
機関誌担当理事	山縣 文 治	○
機関誌担当理事	芝野 松次郎	×
北海道部会担当理事	杉岡 直 人	○
東北部会担当理事	都築 光 一	○
関東部会担当理事	森田 明 美	○
中部部会担当理事	杉本 貴代栄	○
関西部会担当理事	山辺 朗 子	○
中四国部会担当理事	岡崎 仁 史	○
九州部会担当理事	田端 洋 一	○
監事	太田 義 弘	×
監事	田端 光 美	○

新入会員 113名 (2010年度第2回理事会承認) 50音順

相本 幸恵	榎はんど	佐藤 光市	日本福祉大学	波多野 純	静岡英和学院大学
浅井 紀明	上智大学	藤成道	淑徳大学大学院	早川三津子	慶應義塾大学
阿部 優美	明治学院大学大学院	佐野 若生	大阪府立大学大学院	林 亜由美	山口県立大学
荒木 篤	笠松町地域包括支援センター	篠本 直子	大阪市立大学大学院	原田 旬哉	社会福祉法人 神戸婦人同協会
泉 妙子	近畿医療福祉大学	島田 夏代	大阪市立大学大学院	番匠谷光晴	九州保健福祉大学大学院
泉谷 朋子	明治学院大学	申 明姫	広島国際学院大学	日田 剛	宮崎保健福祉専門学校
磯川 舞子	愛知淑徳大学	蘇 瑞萍	中部学院大学大学院	平野 優子	東京大学大学院
井上 信次	川崎医療福祉大学	杉崎 敬	立教大学大学院	深谷 弘和	立命館大学大学院
井上 貴詞	東京基督教大学	鈴木 靖弘	群馬医療福祉大学	藤岡江子	長崎純心女子大学大学院
岩田 智和	和歌山県子ども・女性・障害者相談センター	高橋 明美	明治学院大学	藤田 久美	山口県立大学
岩木 義浩	植草学園短期大学	高森 裕子	三菱総合研究所	古山 美穂	大阪府立大学
植木 智美	久留米大学病院	田川 雄一	神戸掖済会病院	保坂 勇人	社会福祉法人 晴山会
牛田 篤	名古屋文理大学 短期大学部	田中 健一	聖カタリナ大学	本田 千里	聖カタリナ大学
江藤さおり	社会福祉法人 長崎純心聖母会	樽本 真希	㈱デザイン工房	前田 太	中京学院大学
海老 一郎	大阪府立大学大学院	張 允慎	立教大学	蒔田 勝義	鈴鹿医療科学大学
遠藤 紀子	東洋英和女学院大学大学院	趙 丹	東北福祉大学	松本 葉子	田園調布学園大学
オ 恩恵	NPO法人 地域福祉研究所	鄭 敏基	日本社会事業大学	宮寺 義明	早稲田大学大学院
大谷 誠英	日本福祉大学	陳 文穎	大阪府立大学	村田 真弓	岩手県立大学
大海 英夫	大朝ふるさと病院	塚本 鶴樹	首都大学東京 大学院	村松 悠太	沖繩大学
岡部 眞貴子	東洋大学	岡 幸	上智大学大学院	百瀬 博隆	上智大学
小桐 修	日本文理大学	辻 真美	川崎医療短期大学	森木 朋佳	大網白里町社会福祉協議会
尾口 昌康	福岡医療福祉大学	土屋 昭雄	群馬医療福祉大学短期大学部	森田 隆夫	鹿児島純心女子短期大学
小澤 昭彦	岩手県立大学	丁 衛東	龍谷大学	柳井 浩	群馬社会福祉大学
忍 正人	北翔大学	寺嶋 正己	中部学院大学	山口 友佑	日本福祉大学大学院
小櫃 俊介	東洋大学大学院	天間 淳平	八戸大学	山口 幸夫	東洋大学大学院
郭 芳	同志社大学	東海林 崇	株式会社浜銀総合研究所	山田 慎一	日本社会事業大学
蒲池 和明	広島大学大学院	利岡 由隆	花園大学大学院	梁 丁允	横浜市緑区役所
鴨澤 小織	日本大学	富澤 宏輔	大阪人間科学大学	湯川 慶子	立教大学大学院
唐田 順子	西部文理大学	中井 敦美	筑波大学大学院	尹 一喜	東京大学大学院
川久保麻美	長崎国際大学	中島 望	岡山県立大学大学院	吉田 耕平	東洋大学大学院
川島 良雄	関東短期大学	長濱 章雄	知的障がい児施設 希望学園	吉田 清子	鳴門教育大学大学院
岸上 博俊	北海道大学	中村佳代子	新潟医療福祉大学大学院	Lim Tee Teng	岩手県立大学
熊ヒョン廷	日本社会事業大学大学院	費川 信幸	日本社会事業大学	脇坂真理子	金沢大学大学院
熊谷 忠和	川崎医療福祉大学	祢宜佐統美	社会福祉法人 三輪会	和田 一郎	東京都立大学
高 泰洙	四天王寺大学大学院	野口 武悟	専修大学		茨城県県南県民センター
小北 玉子	大阪人間科学大学大学院	萩沢 友一	小矢部社会福祉協議会		
児玉 進	奈良県吉野福祉事務所	朴 正美	早稲田大学		
佐近 慎平	目白大学	朴 昭妍	日本社会事業大学大学院		
笹倉千佳弘	就実短期大学	朴 永ソク	龍谷大学大学院		



◆ 各地域部会の活動 ◆ ～ 2009 年度事業報告 ～

■ 北海道部会

1. 第 48 回大会開催
 - 期日：2009 年 12 月 13 日（土）
 - 会場：北星学園大学
 - ・参加者 60 名、自由研究報告 5 名
 - ・テーマ「障がい者権利条約と障がい者雇用をめぐる国際動向と課題」
 - ・基調講演「障害者雇用の世界的潮流と日本の課題～障害者権利条約を踏まえて～」講師 松井亮輔氏（法政大学）
 - ・シンポジウム テーマ「日本の障害者の雇用をどうするか」
 - シンポジスト：中川 純氏（北星学園大学）
 - ／松本健一氏（札幌障がい者就業・生活支援センターたすく）
 - ／重泉敏聖氏（就業・生活応援プラザとねっと）
 - 司会：松井亮輔氏（法政大学）
 - ・総会開催 決算と予算を承認
2. 理事会・委員会の開催
 - 理事会 年 3 回、編集委員会 年 4 回
3. 機関誌：『北海道社会福祉研究』第 30 号発行
4. 研究会の開催 2009 年 8 月 27 日
 - テーマ「貧困問題と日本の選択」
5. 広報・情報活動
 - ・学会ニュース発行 年 2 回
 - ・学会ホームページの運営（2009 年 4 月より）

■ 東北地域ブロック

1. 研究大会 テーマ「秋田県の福祉問題：自殺」
 - 2009 年 7 月 18 日（土）～ 19 日（日）
 - 秋田看護福祉大学
 - < 1 日目 >
 - ・基調講演「再考：秋田県の自殺」
 - 講師：秋田大学医学部長 本橋 豊氏
 - ・シンポジウム「自殺予防と自死遺族のケア」
 - シンポジスト：湧井真弓氏（秋田グリーンケア研究会代表）
 - ／山口和浩氏（NPO 法人自死遺族支援ネットワーク Re 代表）、助言者：本橋豊氏（前掲）、司会：出雲祐二氏（秋田看護福祉大学）
 - < 2 日目 >
 - 自由研究発表 19 題
2. ニュースレター発行

- 年 2 回
- 3. 幹事会の開催
 - 第 1 回：7 月 19 日 秋田看護福祉大学
 - 第 2 回：4 月 3 日 青森県立保健大学
- 4. 研究誌「東北の社会福祉研究」第 5 号発行 編集会議 5 回
- 5. 第 4 回日本社会福祉学会フォーラムの共催

■ 関東部会

1. 関東部会研究大会の開催
 - 2010 年 3 月 13 日 東洋大学白山校舎
 - ・テーマ：政権交代と社会福祉研究－社会福祉研究は政治変動とどう向き合うのか
 - ・シンポジスト 石毛えい子氏（民主党衆議院議員）
 - ／三沢了氏（DPI 日本会議事務局長）
 - ／川崎洋子氏（全国精神保健福祉連合会理事長）
 - ・コーディネーター 小澤 温氏（東洋大学）
 - ・参加者：91 名、自由報告 9 名
 - ・総会開催：決算と予算を承認
2. 関東部会ホームページの開設
 - 2009 年 12 月から試行
3. 『社会福祉学評論』電子ジャーナル化の実施
 - ホームページでの公開
4. ニュースレターの発行
 - 1 回目は会員宛て郵送
 - 2 回目はホームページ上で公開
5. 運営委員会の開催 年 3 回

■ 中部部会

1. 研究例会 春の例会の開催
 - 期日：2009 年 5 月 23 日（土）～ 24 日（日）
 - 会場：日本福祉大学名古屋キャンパス
 - (1 日目)
 - ・シンポジウム「社会福祉専門職の役割とその養成の課題 (2)」シンポジスト 4 名、コーディネーター 1 名（参加者 58 名）
 - (2 日目)
 - ・自由研究発表 6 報告（参加者 62 名）
2. 総会の開催
 - 2009 年 5 月 23 日（土）
 - 日本福祉大学名古屋キャンパス
3. 幹事会等の開催
 - 常任幹事会 年 5 回開催

常任・拡大幹事会 年1回開催

■ 関西部会

1. 年次大会の開催

期日：2010年3月13日（土）

会場：関西福祉科学大学

テーマ：「ソーシャルワーク実践を考える」

<内容>

- ・ 基調講演「いわゆるソーシャルワークの終焉」
講師 太田義弘氏（関西福祉科学大学大学院教授）
- ・ シンポジウム「関西で研究することの意義」
シンポジスト 永岡正己氏（日本福祉大学）「社会福祉の理論・歴史の観点から」／植戸貴子氏（神戸女子大学）「知的障害者の本人活動の観点から」／所めぐみ氏（佛教大学）「地域福祉の観点から」
- ・ 自由研究発表
- ・ 総会の開催

2. 若手研究者・院生情報交換会の開催

- ・ 第16回「リサーチ・ライフ 200 Q 一研究計画立案と競争的資金獲得に向けた申請書作成を中心に」報告者：小林勇人氏（立命館大学衣笠研究機構PD）／堀田義太郎氏（日本学術振興会特別研究員PD）／新井康友氏（中部学院大学講師・立命館大学大学院生）
- ・ 第17回「コミュニティワーク分析の方法講座ーコミュニティワーク事例検討法を学ぶー」報告者：藤井博志氏（神戸学院大学教授）／常岡良子氏（宝塚市社会福祉協議会）
- ・ 第18回「児童養護問題研究の課題と方法」報告者：望月 彰氏（大阪府立大学）

3. 運営委員会の開催

年5回開催 必要に応じてメーリングリストによる協議を行う。

4. ニュースレターの発行

年1回発行

■ 中国・四国部会

1. 部会役員会の開催：

年3回実施

2. 第41回中国・四国部会大会の開催

期日：2009年6月28日（日）

会場：四国学院大学

実行委員会：四谷学院大学教員、卒業生会員

テーマ：「スクールソーシャルワークの真価を問

う」

基調講演：「日本におけるスクールソーシャルワークの展望」講師 山下英三郎氏（日本社会事業大学）

自由研究発表 等 約100名の参加

3. 第42回中国・四国部会大会の準備

山口県立大学教員が中心となり企画準備する。

4. 若手研究者・大学院生交流会の開催

第41回部会大会の開催時に行った。

参加者約30名。

5. 総会の開催

第41回部会大会の開催時に行った。

6. 部会組織の確立と活動の活性化

役員体制の強化、役員未設置県の解消、現場従事者の参加要請検討、会員の増強、各県レベルでの連携強化、部会ホームページ作成の検討

7. 会報の発行

年2回発行（7月、3月）

8. 部会の研究水準を高める方策の検討

部会大会における自由研究発表のあり方、論文集発行の検討、各大学における大学院生の研究支援についての情報交換

■ 九州部会

1. 運営委員会の開催

年5回開催

2. 九州部会第50回研究大会

期日：2009年12月19日（土）・20日（日）

会場：沖縄大学 参加者85名

テーマ：「沖縄からみた現代の社会福祉」

<1日目>

- ・ 自由研究発表 8分科会 33題
- ・ 院生交流会
- ・ 情報交換会

<2日目>

- ・ 記念講演「沖縄力の時代」講師 野里洋氏（元琉球新報記者）
- ・ シンポジウム「沖縄からみた現代の社会福祉」
基調提案者：高嶺豊氏（琉球大学教授）
シンポジスト：高嶺豊氏（琉球大学教授）／保良昌徳氏（沖縄国際大学教授）／山城紀子氏（元沖縄タイムス記者）、コーディネーター：富樫八郎（沖縄大学教授）

3. 機関誌『九州社会福祉学第6号』の発行

2010年3月 全会員に送付



日本社会福祉学会 学会賞（2010年対象）の推薦について

学会賞（学術賞、奨励賞）は、顕著な研究業績をあげた会員の顕彰及び若手研究者の研究奨励を行うことによって、社会福祉研究の一層の発展に資することを目的としたものです。

来年度の学会賞選考に向けて、本学会会員を対象に、2010年1月～12月に公刊された研究業績の推薦をお願いいたします。

推薦対象の「奨励賞」については、単著書部門と論文部門の2部門を設けています。

「社会福祉学」51-2巻に同封した「学会賞設置要綱」（2010年度改訂版）をご確認の上、推薦書により学会事務局宛にご推薦ください。自薦他薦をお待ちしています。

（締切：2011年1月末）

のデータを変更されていない会員の方が目立ちます。メールアドレスを変更された場合は、SOLTIを使ってご自身で変更されるか、学会事務局までお知らせください。

編集後記

9月に入ったにもかかわらず、猛暑日が続く、観測史上1位という記録更新が続いています。「異常気象」という言葉が連日のように聞かれた2010年の夏は、クーラーがない部屋の中で熱中症により死亡といった現代版の「自然災害」をもたらしました。厳しい冬を路上で過ごさざるを得ない方々への「越冬支援」は長らく取り組まれています。今や路上で暮らす方々ばかりでなく、家のなかでもいのちを奪われる危機に瀕する方々への「越夏支援」を必要とする時代になってまいりました。新しい福祉課題は、雇用環境や経済情勢などの外部環境ばかりでなく、自然環境をも射程にして社会システムの再構築を図る必要に迫られているといえるでしょう。

この学会ニュースは、第22期としては最後の号となり、次号からは第23期役員体制のもとでの刊行となります。わずか3年の任期期間においても社会情勢の変容は大きく、ますます時代の先を読む先見力と時代に先んじて提案できる創造力が問われていると感じます。学会の発信力の拠点として、広報活動の充実と発展を引き継ぎたいと思います。（湯澤 直美）

事務局連絡

▲会費未納の方へ

○機関誌「社会福祉学」送付の宛名シールに、会費納入状況を明記することになりました。「会費未納」と記載されている方はご確認の上、お早めに納入いただきますようお願いいたします。

○2008年度から今年度までの会費を未納の方は、機関誌の送付を見合わせております。今年度末までにお支払いいただきませんと、退会となりますので、至急お納めいただきますようお願いいたします。

▲SOLTIを使った情報更新について

新しい会員管理システム「SOLTI」が稼動して1年が経ちました。

学会HPの「会員情報管理システム」を開き、会員ID（会員番号）とパスワードを使って、自分で会員情報を更新することができますので、ご利用ください。

最近、メールアドレスを変更されたまま、SOLTI

発行人 古川 孝順 **学会ニュース 55号**
編集人 市川 一宏
発行日 2010年9月15日
発行 一般社団法人 日本社会福祉学会
〒160-0008 東京都新宿区三栄町8
森山ビル西館303
TEL. 03-3356-7824 FAX. 03-3356-7820
Email jssw@jt2.so-net.ne.jp
URL <http://www.soc.nii.ac.jp/jssw/>
年会費振替（振込）口座〈日本社会福祉学会〉
・郵便口座 00150-5-59882
・銀行口座 みずほ銀行四谷支店 / 普 / 1859336
(9月10日現在会員数5,295人)